

私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

発行者：安部 登巳

発行所：私立短期大学図書館協議会

〒228 相模原市文京 2-1-1

相模女子大学短期大学部図書館内

電話：0427-42-1411

1993. 3 No.32

◇◇平成4年度短期大学図書館全国研修会開催◇◇

参考業務と書誌 — 社会学：婦人問題を中心に

日本史：近世・近代

をテーマに講義と演習

日時 平成4年10月22日(木)～23日(金)
 会場 古流かたばみ会館(東京・池袋)
 テーマ 参考業務と書誌
 講師 深井人詩氏(早稲田大学図書館)
 佐野 眞氏(学習院大学図書館)
 浅岡邦雄氏(白百合女子大学図書館)
 参加 98名
 主催 私立短期大学図書館協議会

第1日目安部会長の開会挨拶、2日間の日程のオリエンテーションの後講義にはいった。講義内容は深井氏の「参考業務と書誌—データベース—」、佐野氏の「社会学—婦人問題を中心に」、浅岡氏の「日本史—近世・近代」で、要旨は下記のとおり。なお、各講義の詳しい内容は「短期大学図書館研究第13号」に掲載される。2日目、参加者は10のグループに分かれ、与えられた演習問題について、あらかじめ会場に用意された各種の書誌を使って実践的な研修を行った。最後に各グループから問題の解答の発表があり、評価と指導を受けた。

また、1日目の6時より懇親会が近くの池袋サンシャイン58階「摩天楼」で開かれ、東京の夜景を背景に、講師の先生方や知りあったばかりの仲間となごやかに歓談

した。

◇参考業務と書誌—データベース

深井 人詩氏

書誌概説：図書館における参考業務を行うためには「参考図書」に精通する必要がある。参考図書のうち、ここでは利用者の必要文献を探索する道具としての「書誌」を概説する。1) 主題書誌：分類記号や件名語での主題接近には限界がある。そこで内容を読み、設定主題のもとに選択された主題書誌が有効である。実際の資料名を挙げると、時事主題では、1991「総点検・真珠湾50周年報道」(森田出版)、1991「日米開戦関連文献目録」



(軍事史学会)、1971「太平洋戦史文献解題」(新人物往来社)等がある。

人物主題では、1983「田中角栄全視点ニッポン・デモクラシーの構造」(自由国民社)、1972「定本三島由紀夫書誌」(薔薇十字社)、1988「柳田国男年譜・研究書誌」(三一書房)、1991「柳田国男参考文献目録」(解釈と鑑賞56(12))等がある。学会主題では、1991「女と仕事の本」(勁草書房)、1991「教育心理学邦文文献目録1989・7-1990・6」(教育心理学年報30)等がある。

2. 人物書誌: 個人にしる団体にしる人間の著作活動は継続的に生起して、学習・研究・体験を推進させる。個人書誌、集合物書誌、文庫目録等がある。

3. 記事索引: 累積索引、逐刊索引、専門索引がある。各種書誌が各分野に重層的に現れてくるとき、文化、学芸が進展してくる時代といえる。

◇ 社会学—女性問題を中心—

佐野 眞氏

1. はじめに: 研修会では主要な関連書誌の解題が求められがちだが、個々の書誌に触れて習熟すること。

2. 問題解決と書誌: 書誌に強くなるには、自分の課題をもって自分で調べる、つまり利用者になること。

3. 社会学・女性学: 社会学とか女性学とか、範囲に

こだわって関係する書誌、関係ない書誌と区別するのではなく、広い範囲でとらえる。とくに女性問題は人間問題であるから調査対象に範囲があろうはずがない。

4. 書誌にこだわらない
5. 図書館員の教養について
6. 書誌の勉強
7. 書誌の効用
8. むすび

◇ 日本史—近世・近代

浅岡 邦雄氏

はじめに: 利用者の質問は遠回しのことが多い。利用者との会話のキャッチボールを重ねて質問意図を的確につかむ。また、当然ながら自館の参考図書には意識的に接して知識を蓄える。

1. 歴史に関する質問のタイプ: 次の4種類のタイプ時(時間)、所(場所)、人(人物)、事(事象・事件)限定されていたり、重なっていたりするが、質問を整理。

2. 質問内容の把握: 利用者側の質問発生文脈にそって、真のニーズを的確に把握し、質問のタイプと参考図書の性格とを連動させる。

3. 日本史の基本参考図書: 種類別に概観辞書・事典、年表、文献目録、人物関係資料、便覧等。

「短期大学図書館研究第13号」(1993)内容紹介

I 特集 短期大学図書館と地域サービス

1. 毛利和弘: 大学図書館の地域開放に対する基本的考え方
2. 池田政弘: 公共図書館と大学図書館のネットワーク—神奈川の事例を中心に—
3. 安岡貴美代: 地域公開—千葉敬愛短期大学図書館の現状と今後の取組み—
4. 野村 謙: 受験生に対する夏休みの図書館開放
5. 飯野昌子・尾田真知子: 「初めに公開ありき」—ヘッセル記念図書館の場合—
6. 秀平昌子: 成安ブックス宝島
7. 宮坂昌代: 短大図書館の一般公開—利用者に伝えられながら—
8. 小川忠範: 松山大学図書館の市民開放について
9. 田中寿義雄: 短期大学図書館と地域サービスについて

II 一般論稿

10. 梅野智美: 図書館におけるレファレンス業務
11. 小松泰信: 図書館機能の自己点検・評価について

12. 中村克明: 「自由宣言」における知る自由の再検討

13. 菅原春雄: 短期大学図書館に関する文献目録—1985~1992—

III 研修会(参考業務と書誌)報告

14. 深井人詩: 書誌概説
15. 佐野 眞: 女性学—女性問題を中心に—基本書誌の使い方—
16. 浅岡邦雄: 日本史—基本的書誌の使い方—

原稿募集—「短期大学図書館研究」第14号—

「短期大学図書館研究」第14号の原稿を募集します。図書館に関する研究論文、日常業務に関する調査報告書誌、文献目録、索引等の原稿をお寄せ下さい。

原稿枚数: 指定原稿用紙(22字×15字)30枚前後

原稿締切: 平成6年1月末日

送付宛先: 〒112東京都文京区大塚1-5-2

跡見学園短期大学図書館 平塚悦子

電話 03(3943)1368 FAX 03(3943)1368

なお、詳しい原稿募集要項、執筆要項は、同誌第13号の巻末をご参照ください。

平成4年度全国研修会「参考業務と書誌」

参加者アンケート結果 実施日時 1992年10月23日

回収枚数71枚 (参加者数88名 回収率80.6%)

- 1 図書館経験年数 回答数66名
 1)1年未満 8名 2)1-3年 20名 3)4-5年 7名
 4)6-10年 12名 4)11-15年 13名 5)16年以上 6名
- 2 今回の参加費は公費または私費 回答数71名
 1)公費 69名 2)公費+私費 2名
- 3 個人の参加回数 回答数69名
 1)初めて 38名 2)2回 27名 3)3回以上 4名
- 4 図書館の参加回数 回答数67名
 1)毎回 16館 2)5-6回 9館 3)3-4回 15館
 4)2回 18館 5)初めて 9館
- 5 研修会全体について 感想63名
 1)楽しかった、興味があった 20名
 2)演習が勉強になった 12名
 3)ネットワークができ、グループ制が良い 8名
 4)レファレンスの意識向上になった 7名
 5)もっと勉強したくなった 5名
 6)資料を知る事ができ、未見の資料にふれた 4名
 7)毎年続けて欲しい 2名
 8)開始時間を遅く、時間の不徹底、人数を少なく
- 6 テーマについて 感想52名
 1)とても良い、勉強になった、興味がもてた 31名
 2)女性学が参考になった、社会学が良い 13名
 3)日本史が良い 3名
 5)昨年とテーマが異なり良い、分野を変えて 2名
 6)現実によく質問されるテーマで適切 ほか
- 7 講義ならびに講師について 感想58名
- 1)適切、わかりよい、楽しい 24名
 2)勉強になった、親切に教えてもらえた 17名
 3)レファレンスツールの説明がよかった 3名
 4)もっとテーマに添った話を、単調 4名
 5)いまひとつ充実感不足、書誌を作りたい ほか
- 8 演習について(時間、問題、資料) 感想60名
 1)時間 丁度良い、2時間位が良い、不足 各3名
 2)問題 勉強になった、適切、興味深い 各16名
 3)資料 手にできて良い、自館にない資料を購入
 並べ方が良くない、資料提供館に感謝
- 9 その他 意見41名
 1)マイクの調子が良くない 10名
 2)昼休みのビデオ「図書館の達人」が良い 4名
 3)1-8回の参考資料リストを「紀要」に掲載して
 4)もう少し広い所で、トイレが少ない ほか
- 今後の研修に望むこと
- 10 テーマ 意見29名
 1)経済・経営・商業 5名 2)法律、環境問題、
 家政学 各3名 3)美術史・建築史、国文学
 日本語、教育学 各2名 4)英文学、哲学
 世界史、現代史、保育学、スポーツ ほか
- 11 開催時期 意見31名
 10-11月-25名 夏休み-3名 秋-2名 ほか
- 12 開催地 意見32名
 東京 22名 交通便利な所 3名 名古屋 2名
 北海道、東北、関東、横浜、中部、関西、九州
 (研修担当 中村洋子)

新館一覧(加盟館)

図書館名	県別	開館・年月
柳城女子短期大学図書館	愛知	1991.12
拓殖大学北海道短期大学図書館	北海道	1992. 4
鳥取女子短期大学図書館	鳥取	" 4
神戸女子短期大学図書館	兵庫	" 4

* 前回数報掲載分、国、公立は除く

* 図書館年鑑 1992年度、図書館雑誌 1993年・2月号現在

平成5年度全国研修会のご案内

本協議会主催の平成5年度短期大学図書館全国研修会を開催する予定です。詳細は未定ですが各館の日程に入れて多数参加下さるようご案内します。

日時：平成5年11月18日(木)～19日(金)

会場：未定：東京を予定

テーマ：参考業務と書誌(社会科学、美術を予定)

講師：未定

地区活動報告 — 31号以後 —

<北海道地区>

・1992年度研修会

8月28～29日の2日にわたり、札幌大谷短期大学を会場に、「AV資料と図書館」をメインテーマに、講演会と研修が開催された。内容は、会報No.31に掲載の通り。

松岡氏の講演は、最近のAV資料に関する問題点を指摘し、特に図書館における貸出しについて、著作権法第38条5項に触れるなど、興味深い内容であった。

研修は、3名のパネラーによって活発に行われ、中でも菅氏は、生涯学習のための学習情報サービスセンターとしての役割と実際について述べ、短大図書館にとって示唆に富むものだった。

情報交換は・AV資料、設備・利用状況について、各館の報告と、貸出しやダビングの問題点など、具体的に意見が交わされた。

・1992年度第2回役員会

12月1日、札幌大谷短期大学において開催され、会長および1993年度全国図書館大会委員の交代と運営について、それぞれ確認と内諾を得た。

1993～4年度会長館は、北海道女子短期大学に内定。95～6年度は、北海道自動車短期大学の内諾を得た。

1993年度全国図書館大会実行委員は、札幌大谷から北海道女子短大図書館に交代。運営委員は3館に加え、北海道武蔵女子短大図書館、北星学園女子短大図書館、静修短大図書館から各1名選出され、4月に任命される。

<東北地区>

・平成4年度総会・研修会は下記の通り行なわれた。

日 時：平成4年9月26日（土）

13:00～17:30

会 場：桜の聖母短期大学（会議室）

出席館 8館（14名）

・総会（13:00～13:50）

議題

1. 平成3年度会計報告・監査報告（承認）
2. 平成4年度全国理事会報告
3. 平成4年度事業計画・予算案（承認）
4. その他

①本会加盟推進に関しては、各館の地元での活動を乞う。

②全国理事会・総会への出席にかかる旅費半額補助の改訂案「旅費全額補助」に関して、暫定措置として今年度は全額補助をし、次年度からは現理事館が今後の予算を検討し、各加盟館に諮る。

・研修会（13:50～16:00）

プログラム

事例発表「桜の聖母短期大学図書館における機械化事例」

- I. 桜の聖母短期大学図書館の概要（平成3年度）
- II. 機械化（コンピュータ化）への検討・決定
- III. 桜の聖母短期大学図書館コンピュータ・システム
- IV. NEC大学図書館システム「L I C S U. V r. 4. I」とは
- V. 導入経過日程
- VI. コンピュータ・システム運用へのホップ、ステップ、ジャンプ
- VII. 問題点
- VIII. 導入後のメリット
- IX. 今後の計画、可能性

※参考資料

1. 桜の聖母短期大学図書館業務機械化企画資料
2. 桜の聖母短期大学図書館コンピュータ導入実行委員会最終案
3. L I C S U機能概念図・機能関連図

以上の内容にて発表した。

尚、発表補足として、導入業者より2名アドバイザーとして出席。

参加者の関心が高かったのか 質疑応答が活発におこなわれ予定時間を延長した。

・見学会をかねたデモンストレーション（16:10～17:40）

参加者に直接操作をおこなってもらった。

○ 図書館管理システム L I C S U

○ J-BISC, N-BISC

<関東甲信越地区>

9月29日（火） 第3回幹事会（目白学園総合図書館）

議題 1. 合宿研修会事前準備について

2. 雑誌リストについて

3. その他

10月5日（月）～6日（火）合宿研修会

場所：箱根、強羅温泉「対岳荘」 参加者 29名
 テーマ：「21世紀の図書館を語る－相互協力と地域開放のあり方」

1日目

(内容) 1. 基調講義

テーマ：地域開放の基本的考え方

講義者：会長 毛利 和弘

2. パネルディスカッション

テーマ：公共図書館とのネットワーク及び地域開放の諸問題

パネラー

池田 政弘氏(神奈川県立川崎図書館)

野村 謙氏(湘南短期大学図書館)

安岡貴美代氏(千葉敬愛短期大学図書館)

3. 自由討議(1)

4. 懇親会 18時00～19時30分

自由討議(2)20時00分～(21時30分以降は任意参加)

2日目

教養研修(史跡探訪) 9時00～16時00分

10月16日(金)

『所蔵雑誌目録、新版予備版』刊行

10月21日(水) 加盟館名簿刊行

12月1日(火)

会報第16号発行

会勢：101館

新規加盟館

1. 武蔵野美術大学美術資料図書館

2. 富士フェニックス短期大学図書館

<東海・北陸地区>

1. 平成4年度第3回幹事会

日時：平成4年9月3日(木)AM10:30～PM15:00

場所：愛知女子短期大学

出席者：9校14名

議題：(1)平成4年度総大会の総括

(2)平成4年度研修会実施要項について

(3)研修・会報委員会

(4)その他 1.平成4年度第78回全国図書館大会参加について 2.会勢報告

愛知学院短期大学 加盟により44館

2. 平成4年度研修会

日時：平成4年10月9日(金)AM10:00～PM15:00

場所：愛知女子短期大学

出席者：33校44名

<研修会>

会長(愛知女子短期大学図書館長)荻原 啓作先生の開会挨拶に続き、新加盟館(愛知学院短期大学図書館)の紹介をした。引き続き研修会を実施するに当り、講師「春日井 建」先生(愛知女子短期大学教授)を紹介し講演会に入った。

<講演>

演題：「短詩型の現在」 講師：春日井 建

講演会終了後、記念撮影・昼食・図書館見学をした

<報告・討論会>

事例報告Ⅰ「選書と除籍・廃棄について」

報告者：仁愛女子短期大学図書館・主任・酒井 昌夫先生

同：愛知淑徳短期大学図書館・事務長・斎藤 亮先生

事例報告Ⅱ「図書館学生モニターの選定と効果的活用」

報告者：大垣女子短期大学図書館・事務室長・木村 一夫先生

以上、研修会は質疑応答の後、15時をもって会長の閉会の挨拶により終了した。

3. 平成4年度第4回幹事会

日時：平成4年12月8日(火)AM10:30～PM15:00

場所：愛知女子短期大学

出席者：8校13名

議題：(1)平成4年度研修会の総括

(2)平成4年度会報第24号について

(3)平成5年度総大会について

(4)その他、平成4年度第78回全国図書館大会へ東海北陸地区図書館協議会より役員として参加した旨報告

4. 会報第24号編集発行について

平成5年3月中旬発行予定

<近畿地区>

<第29回研修会>

日時：1992年10月20日(火)13:00～15:30

場所：大阪大学生命科学図書館

テーマ：雑誌センター館の現状

参加者：参加館 32館 44名

医学・生物系雑誌のセンター館として、雑誌

収集及び閲覧状況さらには、OPACやCD-

ROMネットワークといった各種の媒体を通

じた情報提供の現状を見学した。

<幹事会>

第1回 1992年5月19日(火)10:00～12:00

- 第2回 1992年6月26日(金) 10:00-12:00
 第3回 1992年10月1日(木) 10:00-12:00
 第4回 1992年10月8日(木) 13:30-15:30
 <雑誌日録編集委員会>
 第6回 1992年9月11日(金) 14:00-17:00
 第7回 1992年10月22日(木) 10:00-17:00
 第8回 1992年12月4日(金) 14:00-17:00
 第9回 1993年1月14日(火) 14:00-17:00

<中国・四国地区>

◆「私短図中・四国協ニュース(第4号)」の発行。

第3号は、'92・9月7日発行。各短大との交流がこれにより日常業務を通して、さらにスムーズに行われるようになった。中国、四国地区の各短大からの照会や連絡等の情報が「ニュース」を媒体に身近かに感じられるようになったことは、まさに情報社会における当然のこころみそれぞれの図書館とのきずなを一層密にしたものといえよう。

◆「第7回(平成4年度)私立短期大学図書館中国、四国地区協議会総会、研修会報告」はすでに各加盟短大図書館に送付したところであるが、このたび特に「あすの短大図書館をめざすもの一現状と展望」と題する小冊子を発行することになった。これは上記協議会の全容と講演会、研修会等の内容を参考資料をもいれてくわしく掲載し、加盟館はもとより未加盟短大図書館へも配布して、さらに図書館の充実に資するとともに加盟館がより多くなり、この会が一層の拡充発展していくことを願ったものである。目下印刷にとりかかっており、2月上旬には発行予定。勿論本部から安部会長、毛利理事等関係各位の遅れている中国・四国地区への叱咤激励の賜物であることは言を待たない。

◆第8回(平成5年度)私立短期大学図書館中国、四国地区協議会総会、研修会はすでに松山短期大学図書館と決定しており、同短期大学図書館でも目下、日程、講師会場、各スケジュール等の大綱について検討にはいっている様子。具体的な要項が決まり次第「ニュース」として各加盟館に連絡される予定。

◆「えひめ図書館情報懇話会」の結成

愛媛県下の国、公、私立大学、短大、高校図書館をはじめ公共図書館、各報道機関(新聞社、放送局)裁判所資料室、県市議会図書室、各企業の図書資料室等によびかけて、それぞれの情報資料の交換、調査研究等はもとより、図書館、資料室等の運営等に相互協力を目的に横の連絡と親睦をはかることをめざして去る平成4年11月28日に結成。事務局を前記第8回(平成5年度)私短図

中国四国地区協議会(理事館)松山短期大学図書館に置き、同学の亀田弘教授(図書館学)が会長に選出された。

<九州地区>

1. 図書館と地域サービスについてのアンケート調査実施

「短期大学図書館研究」第13号特集<短期大学図書館と地域サービスについて>をうけて、アンケートを実施した。項目は次の4つである。I 図書館の地域開放について(館長特別許可による利用以外について) II 図書館によるその他の地域サービス III 短期大学の方針に基づく地域サービスについて IV 外部データベースの利用について。実施期間:平成4年11月、対象館:九州地区加盟館33館。

2. 図書館&館員名簿(平成3年5月調査)の訂正表作成(平成4年11月調査)
 3. 機関誌「ニューズレター」No14(平成5年2月10日)発行。担当館:第一保育短期大学。

記事項目は次のとおり。

◇図書館のパソコンを電話に接続しませんか?
 その2

筑紫女学園大学・短期大学 山本鉄二郎

◇効果的な図書館利用援助のために

九州龍谷短期大学図書館

◇鹿児島純心女子短期大学図書館管理システム(JUN-LICS)の開発

鹿児島純心女子短期大学 川路 孝昭

◇研修会・講習会報告

◆短期大学図書館全国研修会

東筑紫短期大学 森田 清恵

福岡女子短期大学 吉関真紀子

◆私立短大図書館担当者研修会

鹿児島純心女子短期大学 川路 孝昭

◆図書館等職員著作権法実務講習会

西日本短期大学 坂口裕美子

◇トピックス

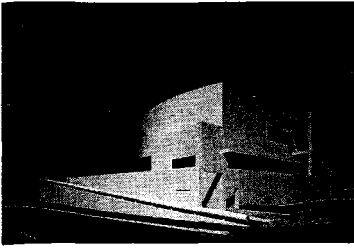
九州大谷短期大学図書館

精華女子短期大学図書館

短大図書館めぐり—第26回—

シオン短期大学図書館

成長する有機体をめざして



1991年10月に新築開館したこの図書館は、前方に果てしない太平洋の海原、後方に阿武隈の山並みを望む広大なキャンパスの中心部に位置し、海と空と光をテーマにした白亜の建物である。本学は現在、教養・英語・生活文化・日本文学の四学科で1200人の学生を擁し、JR常磐線沿線で唯一のキリスト教主義学校として独自の地歩を占める。

設備の整った図書館をキャンパスの中央にという長い間の願いは、創立40周年記念事業の一環として実現をみた。そこには利用者を使い易く、シンボリックで魅力ある施設をコンセプトとして、可能なかぎりのアイデアを盛りこんでいる。

おおよその規模と内容

■建築概要

構造規模	RC造 一部SRC造	地上2階 地下1階
面積	建築面積	1,179.40㎡
	延床面積	3,206.88㎡
	地上 2階	666.92㎡
	1階	1,080.94㎡
	地下 1階	1,459.02㎡

■主要室規模・席数

2階	A Vライブラリー	338.40㎡	76席
	A Vルーム	46.61㎡	18席
	A Vラウンジ	62.16㎡	15席
	A V資料室	49.50㎡	
1階	閲覧室	638.15㎡	64席
	ラウンジ	106.64㎡	24席
	事務室	129.76㎡	
	館長室	22.22㎡	
地階	閲覧室	882.82㎡	94席
	資料室	61.20㎡	
	電動集密書庫	187.00㎡	
	講義室	156.84㎡	99席

■図書収蔵能力 200,000冊

おもな特色 ・各階とも自然光を十分にとり入れ、明るく清新なイメージの設計になっていること ・一階に参考図書、地階に一般図書を十分な間隔をとって低書架で配架したこと ・地階に集密書庫を設けたほか、将来の蔵書増に対応できるスペースを備えていること ・A Vライブラリー専用のフロアー（2階）を設けていること ・1、2階の入口にBDS（書籍探知システム）を設置して資料紛失の防止と、開架方式による自由な閲覧を可能にしていること、などである。

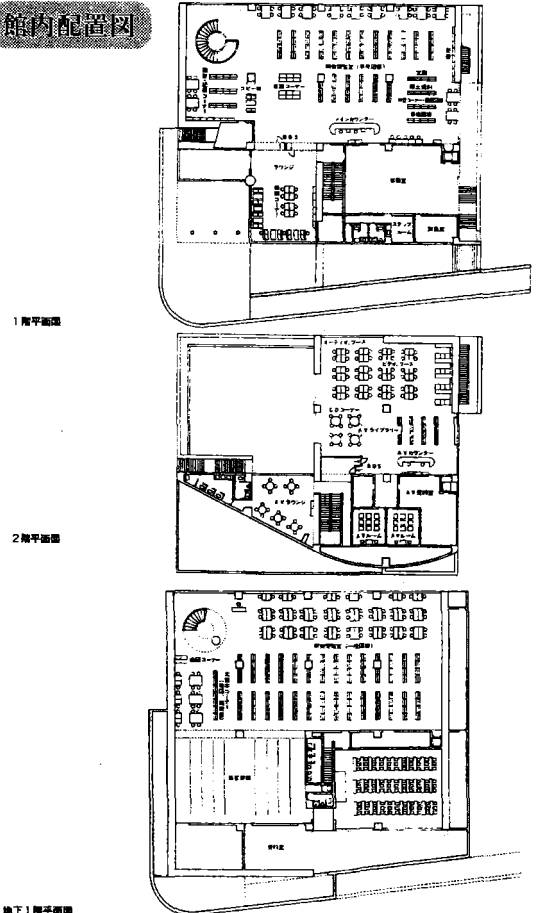
私たちは、立地環境とあわせてすぐれた居住性をもつ新図書館について、「図書館の建物は、中心に位置し、建物とその調度は魅力的で親しみやすく、人を温かく迎えるものであり、書架に直接に接架できる」（1972年ユネスコ公共図書館宣言）という要件を備えた第一級の施設

である、とひそかに自負している。

現状とこれから 本学の図書館は、授業に結びついた図書館、研究を支援する図書館、教養・娯楽の情報を求める広場としての図書館、卒業生や地域住民に開放しサービスする図書館として40年あまりの歴史をもっている。こんごも変わることなくそれら機能を果たしていくが、現在、図書資料約8万冊(点)と雑誌・紀要・新聞約800種を集積する知の心臓部として、7人の専門職員が新施設にふさわしい内容を備えるべく運営にあたっている。

新設置基準（第二十九条）は、短期大学教育の改善に資する図書館のあり方を示している。本館もその点で持てる力を再審し、あるべき図書館像に向かって着実に歩を進めていきたい。当面する課題をあげれば ・図書資料の充実とバランスのとれた資料構成 ・業務の機械化と学術情報提供システムの整備 ・自己点検・評価システムの設定 などである。さらに当然のことではあるが日常では「利用者援助」に最も力を注いでいきたい。「知識の半分は、それがどこにあるかを見出すことだ」といわれるように、学生が図書館の利用に習熟することは大学での学習活動を充実させるだけでなく、生涯にわたって主体的な学習を継続する基礎を培うことになるからである。（上野正治）

■館内配置図



— 本 部 報 告 —

<会 勢>

北海道	19	近 畿	74
東 北	15	中国・四国	30
関東・甲信越	101	九 州	33
東海・北陸	44	計	316館

<新規加盟館>

①武蔵野美術大学美術資料館（短期大学部図書館）

〒187東京都小平市小川町1-736
TEL 0423-41-5011

②富士フェニックス短期大学図書館

〒412 静岡県御殿場市水土野81-1
TEL 0550-88-1360

③神戸女子短期大学図書館

〒650 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL 078-303-4721

④松山東雲女子短期大学図書館

〒790 愛媛県松山市桑原3-2-1
TEL 0899-31-6211

<本部役員会>

平成4年度第4回

日 時：7月17日（金）14：00～17：00

会 場：跡見学園短期大学図書館

議 題：

- ①平成4年度全国研修会について

②「短期大学図書館研究」第13号について

③会報第31号について

④その他

平成4年度第5回

日 時：10月3日（土）14：00～17：00

場 所：東京立正女子短期大学図書館

議 題：

①平成4年度全国研修会について

②「短期大学図書館研究」第13号について

③その他

平成4年度第6回

日 時：平成5年1月30日（土）15：00～17：00

会 場：ホテル神の湯

議 題：

①平成4年度全国研修会について

②「短期大学図書館研究」第13号について

③会報第32号について

④地区特別助成金について

◇ 鈴木英二先生からの寄付金について

本協議会の前会長であり、現在も顧問をお願いしている鈴木英二先生から、本協議会に対し金一封のご芳志を頂戴いたしました。

このご芳志の趣旨は、現在、本部役員会で準備を進めています。「短期大学図書館総覧 改訂版」の発行に対する援助にということでした。本部役員会では協議の結果、有難くお受けすることにいたしました。以上、会員の皆様にご報告する次第です。

近畿地区私立短期大学雑誌目録の刊行について

近畿地区私立短期大学図書館協議会

このことについては、昨年度より私立短期大学図書館協議会の近畿地区協議会の事業として、雑誌目録の編集発行について進めてきた。

この度、関係者の皆様の協力を得て、ようやく刊行の運びとなることになり、地区協議会の参加館が相互に利用しあえる目録が生まれたことは誠に喜ばしい限りである。「近畿地区私立短期大学 雑誌目録 1992年版」は、1980年版の同目録、1981年の同補遺版、1987年の同目録に次いでその継続版として発行するものであり、参加館は79館、収録件数は和雑誌約4,300件、洋雑誌約2,200件であり、前回の目録よりはるかに多く収録件数をもつものとなった。

また、参加館の大学で発行する紀要類を加えるとともに、学情番号、ISSNなど今後の課題を考慮してその

データベースを協議会で運用できるよう配慮した。

その収録範囲も、できるだけ広くかつ希少なものまでを含むものとしたので、その利用にも大いに役立つものと考えられる。

最後にこの目録が、出来るだけ多くの館で用いられ、それが図書館の相互利用に、また検索の手段として生かされることを期待している。

◀ 編集後記 ▶

会報32号をお届けします。今号でご報告する加盟館は316館、6年前に会報の編集を担当することになった時は263館でしたから、その間53館の加盟があったこととなります。加盟館に最新の情報とよき交流の場の提供をと心がけてまいりましたがなかなか思うにまかせず反省しきりです。申し訳ありません。次号より編集人が交替いたします。よろしくご協力ください。（川井）